

## 平成28年度 「大阪市中学校3年生統一テスト」における 新北島中学校の結果の分析について

大阪市による「大阪市中学校3年生統一テスト」について、平成28年10月6日（木）に、第3学年を対象として実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校がテスト結果やテスト結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、テスト結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

### 1 テストの目的

- （1）テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成29年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- （2）学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

### 2 テストの対象

- ・ 原則として、大阪市立中学校の第3学年
- ・ 新北島中学校では、第3学年185名

### 3 テストの内容

- ・ 国語、社会、数学、理科及び英語の5教科

# 平成28年度「大阪市中学校3年生統一テスト」検証シート

実施日 平成28年10月6日(木)

|     |        |
|-----|--------|
| 学校名 | 新北島中学校 |
|-----|--------|

|        |     |
|--------|-----|
| 生徒数(人) | 185 |
|--------|-----|

## 平均正答率(点)

|     | 国語   | 社会   | 数学   | 理科   | 英語   |
|-----|------|------|------|------|------|
| 学校  | 56.9 | 50.2 | 46.7 | 46.7 | 53.7 |
| 大阪市 | 65.4 | 54.4 | 56.0 | 55.0 | 61.2 |

## 結果の概要

・平均正答率については、国語は56.9ポイントで大阪市平均より8.5ポイント低い。社会は50.2ポイントで大阪市平均より4.2ポイント低い。数学は46.7ポイントで大阪市平均より9.3ポイント低い。理科は46.7ポイントで大阪市平均より8.3ポイント低い。英語は53.7ポイントで大阪市平均より7.5ポイント低い。

全教科で大阪市平均を下回ったが社会が他の教科より差が小さかった。全教科において、正答率の高い生徒の割合が少なく、特に正答率が90%以上の生徒の割合が少ない。

・全教科の平均正答率が大阪市平均を下回っているが、大阪市平均に正答率が近い設問を検証すると、グラフから式を求める問題や(数学)写真を見て答える問題(社会)のようにICT活用による成果が見られている。

## 成果と今後取り組むべき課題

### 〔国語〕

・「話すこと・聞くこと」の話し合いの内容をとらえる設問、「書くこと」の作文に関する問題では大阪市平均に近い正答率が出ている。しかし、「読むこと」の説明文の内容を読み取る問題や文学作品の内容を読み取る問題や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の古典の内容を読み取る問題が大阪市平均を大きく下回っている。

・毎授業で実施している漢字テストを継続するとともに、日常的に正しい漢字を使って文章を書く活動を増やし、古典の学習において適切な説明を文章で書き表すことができるようにする。

### 〔社会〕

・ICTを活用し映像をもとに学習に取り組んでいるので、「歴史」の江戸時代における出島について理解し、写真を読み取る問題や享保の改革、田沼の政治、寛政の改革の内容と結果について考察する問題の正答率が大阪市平均より高い。しかし「公民」の現代社会の特色に関する設問の正答率が大阪市平均より低い。

・今後も、時ICTを活用した学習を継続して興味関心を高めるとともに、現在の社会的事象への関心・意欲・態度を高める。

### 〔数学〕

・基本的な問題に繰り返し取り組ませているので、「数と式」の乗法公式を使って、式を展開する問題や「平方根」の大小関係の問題の正答率は大阪市平均と大きな差はない。しかし、「関数」の座標軸上の三角形の面積を2等分する直線の式を求める設問、「図形」の二等辺三角形の性質を用いて、角の大きさを求める設問が大阪市平均を大きく下回っている。

・「数と式」は反復演習により繰り返し行い、ICTを活用して、グラフ等の資料から必要な情報を読み取り、数学的な表現を用いて説明することができるようにする。

### 〔理科〕

・「粒子」の化学変化に関係する物質の質量変化の規則性の問題や「地球」の前線を、天気図上に記号で表す問題は大阪市平均と近い正解率になっているが「粒子」の酸化銀の分解の実験で、ガスバーナーの火を消す前に行うべき操作に関する問題や「生命」の栄養分がどのように消化されるかに関する問題では大阪市平均を大きく下回っている。

・今後も、ICTを活用し観察・実験の学習を充実させるとともに、課題に対して理由を考えたり、推測したりして適切な考察を行うことができるようにする。

### 〔英語〕

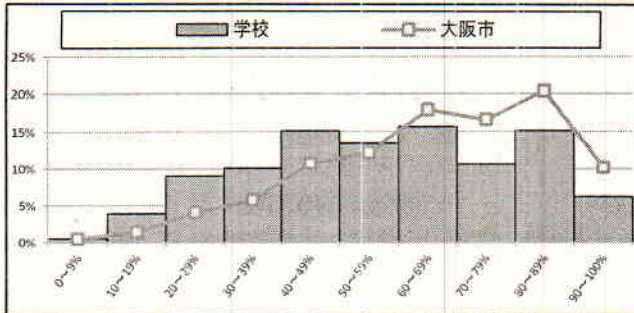
・授業にフォニックス等の音声指導を取り入れているので、「聞くこと」のリスニング問題は大阪市平均に近づいている。「書くこと」の単語を正しく書く設問の正答率は大阪市平均より高い問題もある。しかし、「書くこと」の3文以上の英作文や場面に応じた英作文の正答率が大阪市平均より大きく下回っている。

・今後も、フォニックス等の音声指導の充実を図るとともに、基本的な英作文の演習を増やして外国語表現の能力の向上に取り組む。

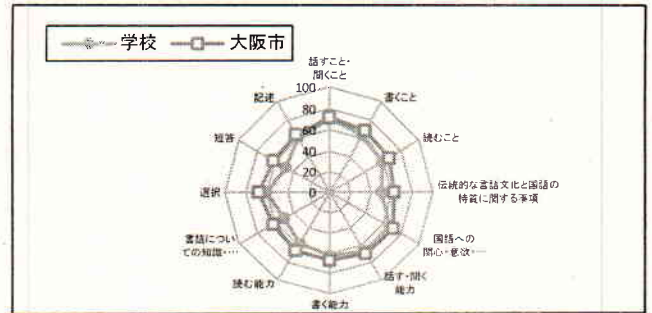
# 【各教科の正答率分布と領域・観点・問題形式別平均正答率の分布】

## 【国語】

【正答率分布】

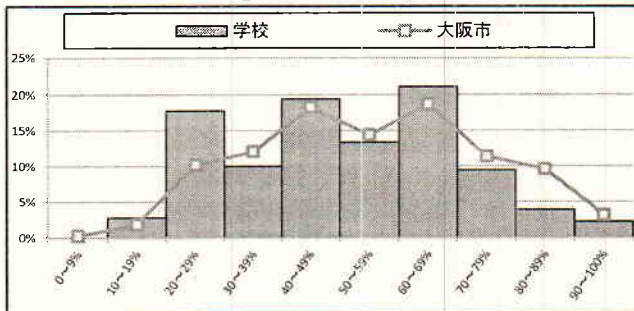


【領域・観点・問題別の分布】

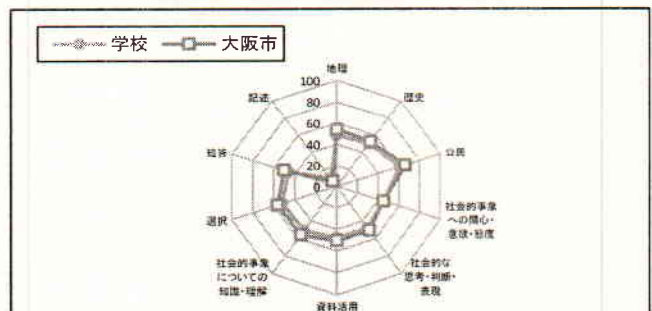


## 【社会】

【正答率分布】

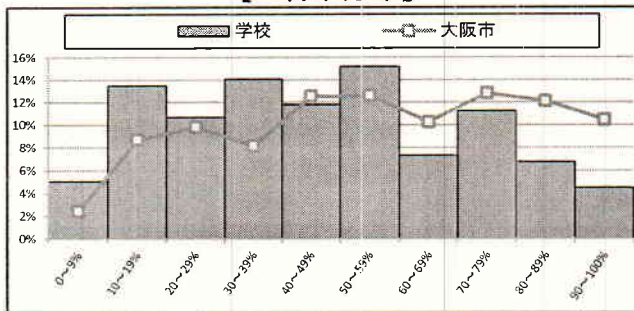


【領域・観点・問題別の分布】

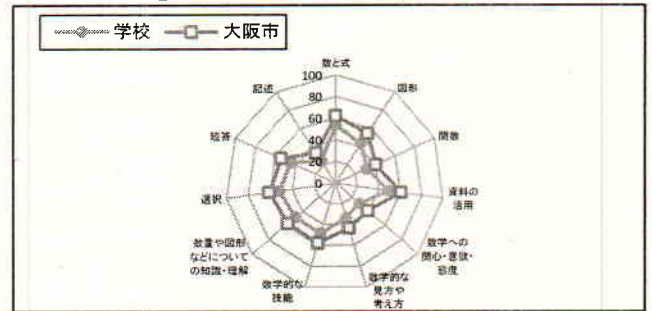


## 【数学】

【正答率分布】

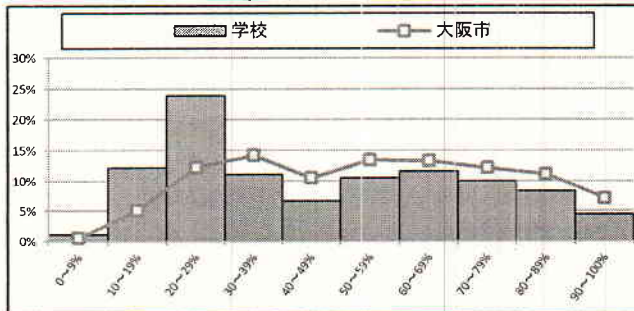


【領域・観点・問題別の分布】

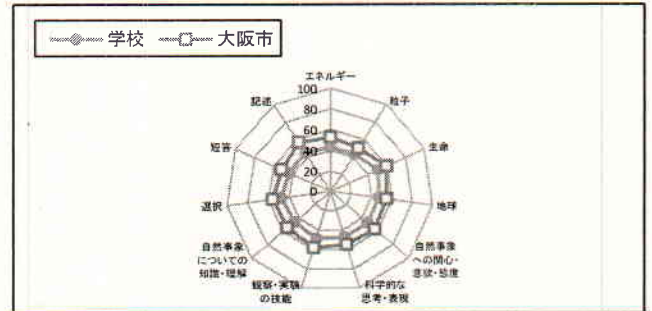


## 【理科】

【正答率分布】

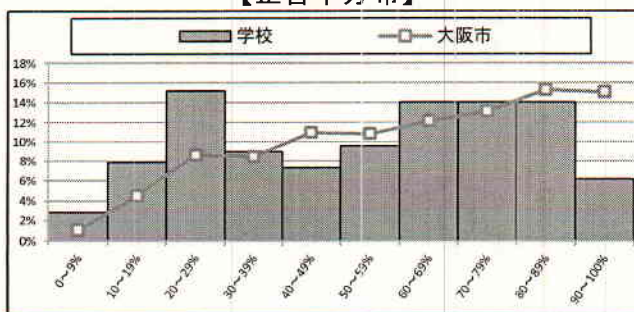


【領域・観点・問題別の分布】



## 【英語】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】

